



たまだれ
No.55

玉垂

Tamadale

奉祝
天皇陛下御即位三十年

特別寄稿文

ラジオパーソナリティー 佐々木優太 / 過去と未来を繋ぐ宮川

神社巡拝家 有村治子 / こと だま さきわ ～言霊幸う国に～

特集

田遊祭・田遊神事の齋行 “その歴史、その意義、その未来”

春に祈る 節分祭の齋行 ～特別奉仕者 元宝塚スター 天玲美音さん～

平成の御代替り みよがわ ～写真で振り返る、世界からの祝福～

小國神社の由来

創

始は神代と伝えられ、延宝八年（一六八〇）の社記によると、人皇二十九代欽明天皇の御代十年（五五五）二月十八日に本宮山峯（本宮山）に御神霊が顕れた後、勅使が遣わされ、山麓約六キロの現在地に社殿を造営し、正一位の神階を授けられました。

それ以来、年々御神前に幣帛を捧げられ文武天皇大宝元年（七〇一）春十八日に勅使奉幣の際、特に十二段舞楽を奉奏されました。延喜七年（九〇七）延喜式内社に列せられ、中世には徳川家康をはじめとする武将など、朝野の崇敬が極めて篤く近世に至っております。

元龜三年（一五七二）の戦では、家康公は御神霊を別所に遷し、願文と三条小鍛冶宗近作の太刀を奉り戦勝を祈願した後、社殿を全て焼失しました。

天正三年（一五七五）に勝利を得た家康公は、御本殿の造営、拜殿・楼門を再建され、更に社領五九〇石の朱印を奉り、以降世々の徳川將軍家より、社殿の改造・修復料を寄進されました。

明治六年六月十三日に国幣小社に列せられ、明治十五年三月に再度の火災により御本殿以下建造物など消失しましたが、明治十九年に復興され現在に至っております。平成十七年には御鎮座一四五〇年祭が斎行され、『遠江国の一宮さま』として崇敬され広く親しまれております。

また、平成十五年九月十四日には、秋篠宮文仁親王殿下同妃紀子殿下のご親拝を賜り、平成十八年十一月八日には、神宮祭主池田厚子様のご参拝、平成二十九年四月二十九日には、高円宮妃久子殿下のご親拝を賜りました。



小國神社のはじまりから
現代までの壮大な物語

小國神社ものがたり
ご祭神とともに

公式ウェブサイト特設ページで
スペシャルムービー公開中

小國神社ものがたり

検索

日本の神様の物語は
『日本の良き国柄』、『伝統』、『文化』を
今に伝えています。

この物語は、静岡市在住の絵本・造形作家のたたらなおきさんよりご奉納いただいた全長約七メートルの絵物語をもとに作成をしたアニメーションです。神代より語り継がれてきたお話には、

日本人の「豊かで優しい和の心」の原点が描かれています。神々の営みの中から「正しい道筋をたてて生きてゆくことの大切さ」や、「思いやりのこころ」を学びましょう。



第二鳥居前の枝垂れ桜

日本の国柄に思いを致して

先ず以て、天皇陛下におかせられましては、本年御即位三十年の佳節を迎えられたこと慶賀の至りに存じます。大御代の弥栄とご皇室のご安泰をお祈り申し上げます。

さて、本年は御代替りという我が国にとって最も重要な儀式が相次いで斎行されます。この度の今上陛下の御譲位による皇位の継承は、憲政史上初めてのことであり、歴史的には光格天皇以来、二〇二年ぶりとなります。来る四月三十日に御譲位遊ばされ、五月一日には皇太子殿下が初代神武天皇より数えて二六代目の天皇に御即位遊ばされます。新帝陛下の御即位に伴い、孝徳天皇の「大化」に始まり「平成」に至る二四七の歴史と伝統を有する元号が改まります。そして、御即位を神々に奉告する祭事や国内外に皇位の継承を宣明する儀式、さらには、国民挙げての奉祝行事が年末まで続きます。

この御代替わりに伴う御大札の祭事や儀式を通じて、私たちは、二六〇〇年以上にわたり万世一系の天皇を戴いてきた我が国の国柄、価値観、世界最古の王朝であるご皇室を中心とした他の国に類例のない歴史と伝統に改めて触れることとなります。そして、その美しい国風は、インターネットやテレビを通じて諸外国にも広がり、私たちが戴く日本の天皇陛下とご皇室に対して世界の人々の注目が集まり、我が国への理解や関心が一層高まることと存じます。

天皇陛下とご皇室が護り伝えてきた尊い大御心。それは、国民の幸せ、国家の安寧、さらには世界の平和を祈る、「祈りのお姿」であられます。他の国々が日本を大切な国だと思ふその源泉はまさに、天皇陛下とご皇室のご存在によるものと存じます。幕末から明治への激動の変革期のなか、自らのご生涯に九万首以上の歌を残された歌聖明治天皇が明治三十七年にお詠みになられた御製があります。

「しきしまの大和心のををしさはことある時ぞあらはれにける」

内外ともに混迷を極め、変革の時を迎えつつある世相にあつて、今こそ大和心を顕す時ではないでしょうか。そして、新たな大御代を迎えるにあたり、改めて、私たちは、日本の国柄に思いを致し、美しい伝統文化を後世に繋いでいかなければなりません。

当社では、来る新帝陛下の御即位を奉祝し、四年の歳月を費やし、御本殿以下社殿群の檜皮葺屋根替え事業を実施して参ります。世情厳しい折かと存じますが、何卒、趣旨をご理解頂き、ご賛同を賜りますようお願い申し上げます。奉祝事業計画の詳細につきましては、改めて、ご報告をさせて頂きたく存じます。

桜が咲き始めますと例祭も近づいて参ります。職員一同、神慮を畏み国の安寧と世界の平和を祈り社務に精進致したく存じます。氏子崇敬者各位のご多幸をお祈り申し上げます。

平成三十一年三月十九日

古来「遊び」は「神事」だった

平成三十一年一月三日田遊祭・田遊神事の斎行

田遊祭・田遊神事とは？

小國神社の田遊神事の創始は鎌倉時代中期と伝えられています。当社が所蔵している最も古い記録、延宝八年（西暦一六八九年）の記録には、旧暦正月三日の夜、ご神前で執り行われたことが記されています。

「田遊神事」とは、年の始めに豊作を祈願して『田作り』から『刈り入れ』までの稲作過程を模擬的に演じ、田の神を活気づけ秋の豊かな稔りを祈る神事芸能です。十二段の演目で構成され、旧社家により奉仕されます。小國神社の田遊神事の大きな特徴は、古い形を保ったまま今日まで傳承されている点です。言霊の靈力による予祝賛美（よしゆくさんび）を中心とした祈りが捧げられます。

昭和三十五年四月十五日に「静岡県無形文化財」に指定され、平成十九年三月七日に文化庁より「記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財」に選択され、現在にいたります。



七番 種蒔ぎ



▲二番 畦塗り

「遊び」の語義と信仰とその意義

現代の私たちにとって「遊び」が「神事」のことであるとすんなり受け止めにくいかもしれません。

「遊び」の用例を辿ると、「神楽」（かぐら）が神々をもてなし、人と一体となる神事として「神遊び」（かみあそび）と称され、極めて古い時代から行われてきたことがわかります。

また、「山遊び」・「海遊び」あるいは「磯遊び」という言葉も本来は、現代のレジャー的な感覚ではありませんでした。山や海に「遊び」に行くことは、長い冬を終えて春となり「狩り」や「漁」を行うことでした。『常陸国風土記』に記載されている地名起源説話にはこのようなものがあります。

―古老のいへらく、倭武の天皇、東の垂を巡りまさむとして 種々の珍しき味ひ、

今日の遊は朕と家后と各、

田遊びで使われる諸具

大太鼓、鼓、小桶・扇子・柳・種
糊・牛王・柳の枝を使います。

大太鼓は田に見立てられ、柳の葉は肥草をあらわします。牛王は当社ではゴオウでなくギユウオウと呼びならわしています。

牛王は、白紙を五角形に折り、一二センチほどの青竹に挟み、麻紐を結びつけます。麻紐は蝶結びにして牛の耳をかたどります。これに「卯・一宮牛王」の文字を刷ります。牛王は牛を形象化したものですが一方で、神さまの宿る依り代としての幣束の意味をもつといわれています。他に、これを模した二〇センチほどの小形の牛王があり、演目の最後に縁起物して福餅とともに撒きます。

柳は素鍬と鳥追いの時に用いられ、鍬や鳥追い棒をあらわします。小國神社では、追難祭や節分祭にも柳の枝が使われます



牛王札▲

● 奉納演目 ●

- 一、素 鍬（しろくわ）
- 二、畦 塗 り（あぜぬり）
- 三、代 掻 き 牛（しろかきうし）
- 四、苗 草 寄 せ（なえくさまよせ）
- 五、苗 草 蒔 き（なえくさままき）
- 六、苗 草 踏 み（なえくさふみ）
- 七、種 蒔 き（たねまき）
- 八、祝 詞（のりと）
- 九、苗 讃 め（なえほめ）
- 十、世 など よう（よなどよう）
- 十一、鳥 追 い（とりおい）
- 十二、歌 おろ し（うたおろし）

▲九番 苗讃め



野と海とに就きて、 同に祥福を争へり

遊漁（うおあそび）の利多し 今日遊（あそび）は朕と家后と各 野と海とに就きて、同に祥福を争へり

野の狩りも海の漁も「今日の遊」と称していることから、私たちの祖先は「遊び」を通じて、神々が運ぶ季節の恵みを身体に取り込み、自らの靈魂に新たな活力をいただけてきました。つまり、「遊び」の語義には、私たち日本人の信仰の根源があらわれているといえます。

自然と共に生き、その恩恵を受け、そこに神々を見いだしてきた私たちの祖先は、「遊び」を大切な生活の節目として強く意識し、農業や漁業を開始するにあたり、一層の豊かな稔りや恵みを祈る神聖な日として位置づけてきました。

このように「遊び」の語義には、神々への「感謝」と真摯な「祈り」が込められています。

自然の中で、天地の恩恵をうけ、神々と共に生きていくことは、我が国の麗しい精神文化です。

田遊神事く伝統文化のこれからく

当社の田遊祭、田遊神事は「無形の民俗文化財」として指定をされています。

この「無形」であるということには、大きな意義があります。いわゆる、国宝などに代表される「有形」の文化財などは震災などがあれば全て無くなってしまうことがほとんどです。

しかしながら、「無形」のものはありません。神社と神々を敬う地域の人々の連綿とした努力による精神の継承がある限り、ゼロになることはありません。たとえ、大規模な災害などで途切れたことがあつたとしても、何度でも復活し、続くことが可能です。これは本当に素晴らしい文化であるとともに我が国の大きな特徴であり、強みともいえます。

新帝陛下ご即位による御代替わり、二〇二〇年東京オリンピックなどを控え、世界の人々が我が国へ注目しています。様々なツーリズムシンクタンクが伝えるように、日本の伝統や文化に触れたいと考えている外国の人々が年ごとに増えています。

私たちは、祖先が神々の恵みに感謝し、護り伝えてきた貴重な神事祭礼文化を深く見つめ直し、諸外国の人々にも、それらが内包する麗しい精神性と日本の魅力を正しく伝えていくことが今後ますます求められていくでしょう。



▲終演後の餅撒きの様子



▲五番 苗草蒔き



▲四番 苗草寄せ



過去と未来を繋ぐ宮川

神社巡拝家

ラジオパーソナリティー

佐々木優太

大きな川は見えなくても、木々を見る事によって、この土地がどれほど水に恵まれた土地かを知ることができる

みなさん、こんにちは。神社巡拝家の佐々木優太です。日々、全国の神社を巡っております。神社を参拝させていただく時は、必ず現地の人にお話を伺うようにしています。神職さんや氏子さんを始め、そこに住まわれている方々です。そこで見た景色や聞き得た話などを、ラジオや書籍を通してお伝えしています。

僕が小國神社へ初めて参拝させていただいたのは、平成二十三年十二月でした。遠江一宮駅に降り立ち、そこから歩いて小國神社へ向かった時の事をよく覚えています。乾燥した時期でしたが、スギやヒノキの巨木がいきいきと生い茂る長い参道へ入った瞬間に豊かな水の存在を感じました。大きな川は見えなくても、木々を見る事によって、この地がどれほど水に恵まれた土

地かを知ることが出来るからです。社殿に辿り着き、参拝をさせていただいた時には、地域の方々の想いを感じました。地上の木々を見て、見えていない地下の水脈を感じるように、社殿に手を合わせることで、神社を支える方々の想いを感じ取ることが出来ます。神社は、ある日突然この世に現れるものではありません。神職さんや氏子さんをはじめとする護り伝える人、社殿を建てる人、掃除する人など、様々な人によって成り立つものです。今こうして、僕が参拝することができたのは、小國神社に集うみなさんの連綿とした努力のお陰なのです。

さて、小國神社には宮川沿いに続く心癒やされる「もみじの散策路」があります。この散策路について、神職の方に伺う事が出来ました。この宮川を



神職と宮川を散策 ▲



宮司との対談の様子 ▲

”もみじ“を植えた神職たちが五十年先を見据えていたように



散策後、清々しい表情の佐々木様

僕たちも五十年後に生きる人々の幸せを願いながら
しっかりと生きなければならぬと思うのです。

たどっていくと、ご祭神が最初に降りられた場所へ繋がっているそうです。参道の木々をはじめ、境内に生命力が満ちていることに納得しました。実は、この散策路。神様とも繋がっていますが、人とも繋がっているというお話を伺いました。初夏の爽やかな新緑と秋の紅葉で参拝者を癒やしている小國神社の「もみじ」は、昭和三十年代に、当時の神職たちの手によって植えられたそうです。その頃はまだ、現在のよ

うに神社を訪れる人は多くなかったと伺いました。そのような時代に未来を見据え、人々が集うようにと願いを込めて「もみじ」を植えた神職たちに想いを馳せると、宮川と散策路は「神様と人、過去と未来」を繋いでいるように思いました。当時の神職が願った通り、今日の小國神社には多くの人々が集うようになりました。門前通りの「明神通り」をはじめ、「小國ことまち横丁」も賑わい、これからも益々人々が訪れることでしょう。「もみじ」を植えた神職たちが五十年先を見据えていたように、僕たちも五十年後に生きる人々の幸せを願いながらしっかりと生きなければならぬと思うのです。小國神社へ参

拝させていただく度に、「神々を敬う人々の優しい心で隅々まで満たされている神社」であると感じさせていただいております。

お陰様で、自身が参拝させていただいた神社は、全国一万社を超えました。今も変わらず各地の神社を巡っております。いつの日か、みなさんにお会い出来る事を楽しみにしております。



プロフィール

神社巡拝家
ラジオパーソナリティー
佐々木優太

全国1万社以上の神社を巡拝。拝受した御朱印は3千を超える。神社巡りの旅で得た知識・見た景色・頂いた御縁を歌やトークで全国に伝えながら現在はTV・ラジオ・雑誌・講演会・ライブ等多方面で活動。関西弁の人懐っこいキャラクターと分かりやすいトーク、そして知識の豊富さから特に年配層からの支持を得ている。



春に祈る 節分祭の斎行

大勢のご参拝の皆さままで賑わう二月三日(日)に節分祭を斎行いたしました。

新春に相応しい色鮮やかな装束に身を包んだ一〇〇余名の年男役、年女役の皆さまがご奉仕いたしました。また、今年の特別奉仕者は、元宝塚歌劇団で女優の天玲美音様にご奉仕をいただき、天玲様が舞殿に登場すると大きな歓声と拍手が境内を包みました。

『節分祭』を始めとする伝統行事には、私たち祖先の感性や暮らしの知恵が込められ、日本の四季折々の自然や風土に調和するかたちで各地に伝わっています。

『節分』とは

節分は、立春、立夏、立秋、立冬の前日を指し、本来は年四回あります。現在では特に、立春の前日を指す場合が多くなりました。これは、旧暦を使用していた時代には節分が年初めの前日、つまり大晦日とされ、冬から春に移る時節であることから、特別な意味を持つようになりました。

節分の行事は、本来宮中で季節の変わり目に行なわれた年中行事で、これに大陸から伝わった(追儼・鬼遣らい)の神事が加わり、平安時代から行なわれてきました。時代が下ると次第に民間に伝わり現在に至ります。節分当日の夕暮れ、ヒイラギやイワシの頭を家の入り口などに挿しておいたり、豆撒きをするようになりました。

このようにしておくと、鬼(流行病や災難をもたらす邪鬼)がヒイラギの葉のトゲに刺さり、イワシの悪臭に驚き逃げていくと考えられていました。

これは、季節の変わり目には邪気(鬼)が生じると考えられており、それらが家に侵入しないように追い払うためです。

また、豆を撒く際のかげ声は通常「鬼は外、福は内」ですが地域や神社によって様々です。鬼を祭神または神の使いとしている神社などは「鬼は外」ではなく「鬼は内」としているところもあります。

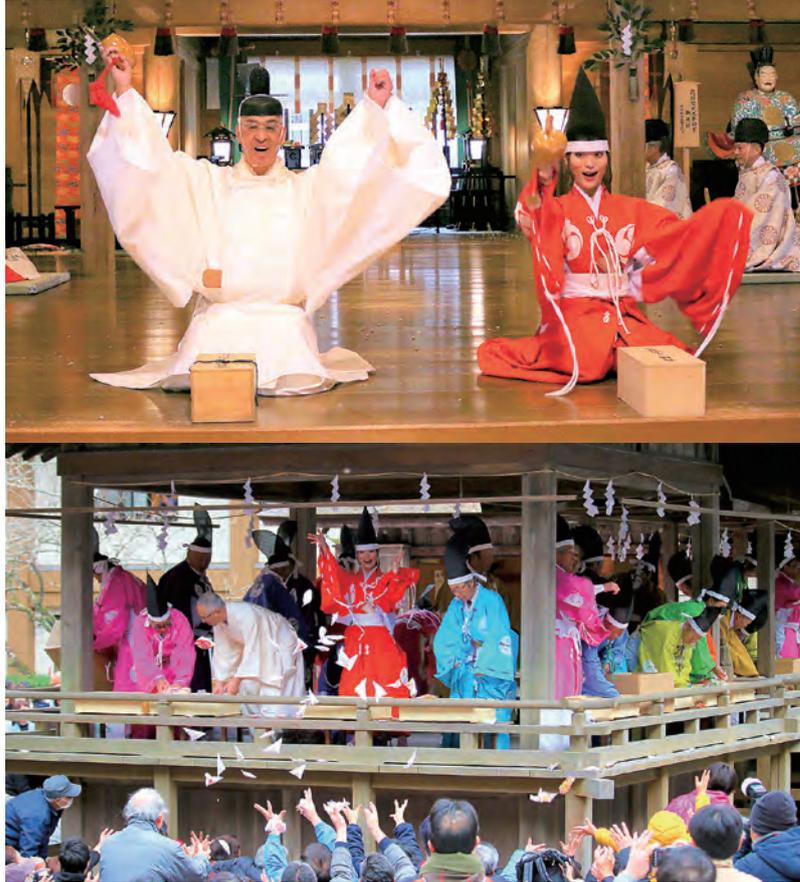
▶豆まき神事



▲福を呼び込む福笑い神事



▲豊栄舞の奉奏



福徳円満 宝槌打振神事 ▶

豆撒き神事 くなぜ豆を撒くのでしょら

豆を撒く意味は、豆には穀物の穀霊が宿り生命の源の象徴と考えられ、鬼に豆をぶつけることで邪気を祓い、一年の無病息災を願う意味合いがあります。

家庭においては、夕方家のドアや窓を開けて家の主人が豆を撒き家族の幸せを祈ります。豆を自分の年齢より一つ多く食べると、身体が丈夫になり、風邪をひかないとの言い伝えもあります。

幸せを祈るころ

立春が過ぎると、空には厳しい風が吹き渡っていても、陽射しは春めいてきます。山野の草木は、静かにその芽を育んでいます。このような神々が運ぶ悠久の天地の流れにあわせて、人間もまた春を迎える支度に取り掛かります。

なぜ、日本人は数々の伝統行事を大切に護り伝えてきたのでしょうか。それは、季節の恵みへの感謝と、日々無事に生活できることへの喜びを認める機会として位置付けてきたからに違いありません。私たちは、伝統行事を楽しみながら生活の中に取り入れ、祖先のところに触れ、日々の生活に『豊かさ』と『潤い』を与えてゆきたいものです。



▶清々しい笑顔で神事をご奉仕されました

伝統行事は、四季折々の「自然」や「風土」に調和しながら「日本のこころ」を伝えていきます



大神様のご加護をいただく「金幣行事」▶

邪鬼を鎮める「鳴弦式」▶

社頭 動力 争

師走の大祓式・除夜祭の齋行

日々の穢れを祓い清め、清々しく一年を迎える

平成三十年十二月三十一日(月)大晦日に師走の大祓式を執り行いました。

当日は、約六〇〇名の皆さまが参列されました。

大祓は、私たち日本人の伝統的な考え方に基づくもので、常に清らかな気持ちで日々の生活を送ることができるよう、自らの心身の穢れ、災厄の原因となる諸々の罪や過ちを祓い清めます。

大祓式の後には、引き続き除夜祭を執り行い、大神様のご加護のもと一年を無事に過ごせたことを感謝し、新しい気持ちで、新年を迎えることができるようお祈りいたしました。



御弓始神事／日置流による大祓式▲



師走大祓式／切麻で自らを祓うご参列の皆様▲

小國神社氏子青年会奉仕活動のご報告

社を中心とした地域の発展を願い、大神様への真心のご奉仕

小國神社氏子青年会では、年末年始にかけて様々な奉仕活動を行ないました。

年末には、注連縄の奉製と掛け替え作業の奉仕を行い、年明けからは、「小國神社開運だるま」の授与、正月行事の締めくくりに、一月二十日のどんど焼きの、おはたき餅の授与奉仕を行ないました。

また、二月には建国記念奉祝パレードにおいて子どもたちの引率を行ない我が国の建国の理念を伝える活動を行ないました。

本年も、神社の発展と地域の発展に寄与できるよう活動を展開し、国を愛する麗しい心と伝統を尊ぶ精神を伝える活動を行なってまいります。

御弓始祭の齋行

年の始めに祈る「五穀豊穣」と「厄神鎮送」

本年一月十七日(木)に御弓始祭を齋行いたしました。

当日は、宮司が祝詞を奏上した後、舞殿東側の内庭にて、県内の弓道愛好家らが所属する大弓会のご奉仕により御弓始神事を厳かに執り行いました。

日置流大祓式の作法によりおこなわれるこの神事は、一挙手一投足が非常に細やかで、美しい神事です。

地射手が約二十八メートル先の的に矢を放つと、鋭い風音が響き、斎場からは歓声があがりました。

的を射貫いた矢は魔除けの縁起物と伝わり、的の近くで拝観している参拝者が我先にと手を伸ばしていました。

鉄製千支アート作品のご奉納

一宮 在住の鉄のアート職人

鈴木格子様より、本年も新しい千支にちなんだ「己亥年」の鉄製千支アート作品をご奉納いただきました。

本年の作品は、愛らしい表情と精巧に造られたイノシシの毛並みが特徴的です。

鈴木様は、鉄を利用した様々なアート作品を製作されており、火力のほか手作りのペンダーなどを用いて作品を仕上げてかれるそうです。

当社には平成二十一年の丑年からご奉納をされて本年で十一年目を迎えます。

本作品を一月中の期間限定で展示したところ、縁起の良いフォトスポットとして多くのご参拝の皆さまが記念撮影を楽しんでいました。

鈴木様のご厚志に改めて感謝を申し上げます。

本宮山奥磐戸神社例祭の齋行

大神様が初めて降臨された聖なる山

一月六日(日)に本宮山奥磐戸神社例祭を執り行いました。

社伝では、大神様が本宮山山頂に「欽明天皇十六年乙亥二月十八日」に天降られたと記され、本宮山奥磐戸神社は、「一宮ノ荒魂社奥院也」とされ、現在の本社とは元宮と里宮の関係です。

当日は、一〇名のご参列のもと、盛大に執り行われ、祭典終了後にはお神札を授与し、古式神酒とお下がりを頂きました。

年の初めに本宮山山頂で大神様のご加護を受けられた皆さまは、一様に清々しい表情をされていました。

本宮山奥磐戸神社へのアクセスは

本宮山奥磐戸神社 アクセス

検索



設置された枝垂れ梅の鉢植え(左) ▲



▲大祭“祈年祭”豊かな稔りを祈ります



▲注連縄掛け替え奉仕の様子

祈年祭の齋行

日本人の原点を伝える
日ヒとしごいのまつりヒ

平成三十一年二月十八日(月)、祈年祭を執り行いました。

祈年祭は、「としごいのまつり」とも呼ばれています。「としヒ稲の魂」、「こいヒ祈り」を表わします。五穀の豊かな稔りと、国家の安泰を祈るお祭りです。

お米をはじめとする作物の収穫への感謝と豊作への祈りが神社にとつて最も大切なお祭りとして位置付けられていることから、稲作は、日本文化の原点であると言えます。

また、本年も松尾貞子様より椎茸やキャベツなどを多数ご奉納いただき、ご神前にお供えしての齋行となりました。松尾様のご厚志に深く感謝を申し上げます。

紀元祭の齋行

本の国柄を正しく知り、
日ヒその精神を後世に伝える

本年は、初代神武天皇が建国し、ご即位された日より二六七九年を迎えます。

二月十一日(月)に建国の偉業を仰ぎ、我が国の発展をお祈りする紀元祭ヒを執り行いました。祭典後には、五〇〇余名が奉祝記念式典に参加しました。

日本は、国家の起源を神話に求めることができます。その歴史が、神代から現在まで一本の糸で繋がる類い稀なる国家です。

本年は、平成最後の年です。改めて、二六七九年続く我が国の歴史と伝統について考える良い機会であると思えます。

(有)一十園様による紅白の枝垂れ梅鉢植えの設置

鳥居のすぐ側に巨大な鉢植えが出現!?

(有)一十園 代表取締役 小林健様より、春の訪れを感じる紅白の枝垂れ梅の鉢植えをご提供いただきました。

樹齢八十余年の梅の木が直径約一六〇cmの巨大な鉢植えに植わっている様は、普段では中々見ることができないものです。

ご参拝の皆様もこの珍しい光景に、感嘆の声を上げるとともに、梅の花の香りと咲き姿を楽しんでいました。

小林様のご厚志に深く感謝を申し上げます。

皇紀二六七九年

己亥

平成三十一年

製作
長町一宮
鈴木 格子 氏



▶平成三十一年「己亥年」
製作・鈴木格子様

第九期第二回遠州とこわか塾

ユネスコ無形文化遺産に登録された和食

平成三十一年三月三日(日)に第九期第三回目の遠州とこわか塾を開催いたしました。

今回は、東京家政学院大学名誉教授の江原絢子先生を講師にお迎えし、自然を尊重して育まれた「和食」の魅力と題し、ご講義を賜りました。ユネスコ世界遺産にも登録をされている「日本の精神文化が育んだ和食」の特徴と魅力をわかりやすくお話をいただきました。

塾生からは、「和食文化は、日本の大きな魅力の一つ。東京オリンピックを控え、海外にもこの素晴らしい文化を広く知って頂きたい。」との声も上がりました。



日本の神話に親しむ会による
読み聞かせのご奉仕(二月十日)

～言靈幸う国に～

参議院議員 比例代表(全国区)選出
神道政治連盟 国会議員 懇談会副幹事長

ありむら 有村 治子

近年、「この国」という言い方が幅を利かせています。閣僚や自由民主党の国会議員でさえ、「この国」という言葉を多用します。今や違和感を覚える人も少ないのかもしれませんが、私はこの語句を聞くたびに戸惑いを覚え、自分の国を（無意識のうちに）相対化させることへの弊害を案じます。

日本は一体いつから「その国・あの国・この国」と、人指し指で指示される国になったのでしょうか。父祖伝来の郷土、その集合体として先人から継承してきた日本は、我が命と人格を育んでくれた「我が国」であるはずで、かけがえない「我が国」の独立と家族の安寧を願って一命を捧げられた御霊が、靖国神社に眠られているのではないのでしょうか。国難に殉じられた方々が一命を捧げてまでも各々の持ち場に向かわれたのは、まさに「祖国」を想う心からであり、「この国」ではなかったはずで、

私達は家族や地域、学校や職場など、多くの組織や共同体に属しています。夫や妻、あるいは親子や同僚が「そもそもあの人は：」「この家は：」「あの学校は：」「その地域は：」といった指示語を取って使う時、多くの場合は自らと距離



初代女性活躍・少子化対策担当大臣時代、打田宮司と(右)境内を散策する有村議員

を置きたい時や、批判的な立場を取る時に、このような指示語が使われます。

もし自民党の主たる構成員である議員が「この党は」と、政党と自らに距離があるかのような突き放した言葉を使い続けたら、国民の皆さんは果たして自民党を支持し、力を与えようと思つて下さるでしょうか。社長や役員達が「この会社」と、組織と経営責任を切り離すような物言いが続けた先に、会社の発展や消費者の信頼はあるのでしょうか。



森町長太田康雄様(右)とのご歓談(小國神社にて)

私達は日頃、「我が家では」「ウチの子は」「私達の会社では」と帰属意識を明確にした言葉を使うことによって、自らが属する組織や地域への愛着や情を示すと同時に、自らの立ち位置や責任を明らかにしています。子供達が運動会で「赤組ガンバレ!」「白組フレイフレー」と躍起になるように、自らが主体的な構成員だと認識するからこそ、「その発展のために尽くそう!」と努力する気持ちや誇りが育まれるような気がします。

私達民族の食習慣は和食であり、数ある選択肢の一つにすぎない日本食ではありません。言語の一つと相対化する「日本語」ではなく、私達の母語は「国語」であり、日本史は本来私達にとって「国史」と言うべ

き、民族が全力で紡いできた命の系譜であるはずで、

父祖伝来の国土や文化的集積を持つ「我が国」を一般的名詞として相対化させ、自らのアイデンティティと国家に距離を置くかのような言葉遣いが蔓延することに、果たして国家弱体化の政治的意図はないのでしょうか。自らが地域や国家の未来を担うという気概なき言葉遣いが、内外の難局を乗り切らねばならない現在の日本にとって、果たして健全な風潮なのかどうか。少し冷静になってみることも必要かもしれません。

自らが発する一語一句に魂や哲学を込める「言靈(ことだま)」という素晴らしい言葉を、先人は遺してくれています。言葉集いわく、私達は、言靈(ことだま)幸(さきわ)う国(言葉が持つ霊的な力が幸福をもたらす国)に生まれし国民でありたいものです。

プロフィール

参議院議員
神道政治連盟国会議員
懇談会副幹事長

有村 治子



平成十三年、参議院議員通常選挙 比例代表(全国区)で初当選(三十歳)の後、初代女性活躍担当大臣、少子化対策担当大臣等を歴任。現在、参議院自民党政審会長を務める。しっかりとした国家観と地に足のついた生活感を併せ持って課題解決することを心がけ、歴史の評価に耐えうる、まっすぐな政治を志す。本年七月の参議院選挙に向かって、神道政治連盟(小國神社宮司・打田文博会長)より推薦を受ける。

代表質問

平成三十一年三月四日 参議院予算委員会

ありむらほるこ
有村治子議員

当社主催の文化塾「遠州とこわか塾」塾生より、「非常に的を得た質問と意見だった」との好評のお声をいただきました。

リーダー照射問題について主張した有村議員の国会質問は、動画サイトで二十六万回を超える動画再生回数となり、国民的関心を寄せています。

今回の特別寄稿に際し、全国NHK中継がなされ、自民党を代表し質問に立った有村議員の国会質疑の骨子をまとめました。いくつご紹介をさせていただきます。

皇位継承について

御代替わりについて理解を深める教材を

●有村議員

四月三十日に天皇陛下が退位され、五月一日に皇太子殿下が第百二十六代の皇位に即位される御代替わりについて、的確に学べる教材を作成して欲しいという要望が教職員団体からも上げられている。文部科学大臣の見解を伺いたい。

●柴山昌彦文部科学相

わが国の歴史にとつて極めて重要な節目。子供たちが天皇について理解を深めることは非常に意義深い。平成のご即位の際と同様、各学校で指導を促すよう通知を出すことを検討している。

日本の良き歴史、良き伝統を次世代へ繋ぐ

幼児教育・保育について

●有村議員

子育て世代の不安を払拭する施策が大きく推進

幼児教育、保育の無償化から、高等教育の無償化まで、教育に関わる経済的負担の軽減策が大きく推進しようとしている。国家の意思として教育の無償化の拡充を実現していくご決意を伺いたい。

●安倍晋三内閣総理大臣

本年十月、三歳から五歳までの全ての子供たちの幼児教育、保育を無償化していく。また、高等教育についても修学支援金を拡充して来年四月からの私立高校授業料の実質無償化の着実な実施に向けて取り組む。



安倍晋三内閣総理大臣に質問する有村議員 ▲

かけがえのない命に敬意を払う社会を創る

最後に、皆さんが良く目にする「マタニティマーク」にかける思いについて有村議員に語っていただきました。

新しい命を育む お母さん達を応援!!

平成十八年、私は首相官邸で「全国統一のマタニティマークを制定すべき」と提案しました。「新たな命を育んでいる妊婦さんを、みんなで温かく見守れる社会に」との想いを広げていきたかったからです。

以来、全国の自治体や鉄道各社の協力を頂きながら、子育て世代のみならず、多くの世代的な支持を得て、少しずつですが着実に全国的に広がり、安産祈願をされる妊婦さんに、マタニティマークを配ってくださる神社も出てきました。

かけがえのない命に敬意を払う社会を創っていくことは、子供達が安心して外で遊べる町の治安、社会の安全など公益につながる基盤です。これからも命の重みと、家族のきずな、国家の尊厳を守る活動を進めていきたいと思っています。



少子化対策大臣室でのマタニティマーク ▲



神さまと暮らす豊かな生きかたを提案する

遠江国 小國神社 × 静岡木工

神棚の里

小國神社と人と暮らしとのかみのたな展
今年も開催!! テーマは「元号」

遠江国一宮小國神社研修室で四回日の開催となる「小國神社と人と暮らしとのかみのたな展」を大型連休である平成三十一年四月二十七日～五月六日の期間で開催します。

本展示のテーマは「元号」。今年五月より新帝陛下のご即位に伴い、新元号となる節目を機に、飛鳥時代から一三〇〇年以上続く「元号」について、その歴史や神事の面から着目します。

キリスト誕生暦としての年号「西暦」とは異なり、元号（和暦）には日本が経てきた各時代の背景と祈りが込められ、その軌跡を辿ることで、一六代続く天皇を中心とした世界最古の王室を頂く日本の歴史に触れることができます。

歴代の天皇が国の安寧を願い、継承されてきた心と精神は、日本の『神さまと暮らす文化』として現代へ続き、各家庭のおまつりへと広がり、私たちの国の礎を形成してきました。

元号に関する企画展示と共に会場内には展示販売スペースを準備。家庭のまつりを担う「神棚」や全国各地から集めた神具の逸品、暮らしを丁寧にする様々な品を多数ご用意し、日本の神事を広くお伝えしていきます。



おおはらえのことば

時代を通して変わらない大切なもの、
「それは清らかな心」



一三〇〇年以上前から伝わる「祝詞」(のりと)「大祓詞」(おおはらえのことば)を紐解くと、太古の人々が「はらえ」(生まれ出たときの様な清らかなころになること)を大切にしていたことがとてもよくわかります。

この作品は大祓詞の深遠な世界観をアニメーションで表現をしました。

いにしへの祝詞

大祓詞の世界への誘い
おおはらえのことば

公式ウェブサイト特設ページで
ムービー公開中

小國神社 おおはらえのことば 検索

神々とお祭り

私たちの祖先は、かみまつ神祭りのなかから生き方を学び信仰の礎としてきました。

また、古くからの伝承や歴史をふまえ、豊かに暮らす知恵を生活のなかに生かし、神々と生活をともにしてきました。

毎年同じ時期にお祭りが繰り返し行なわれ、私たちはその中で信仰や文化をかたちづくってきました。

「お祭り」とは、日本の伝統にもとづいて、

神々に対する祖先のこころを今に伝える大切なかたちです。



大神様へ感謝の真心まごころを伝える

日々々の感謝を伝え、
ともに喜びを分かち合う

今年の例祭期間は四月十六日(火)末社塩井神社の垢離祭(神職・舞楽人が身を清める塩水を汲むお祭り)の斎行にはじまり、十七日(水)には前日祭を執り行い、十八日(木)の例祭を迎えます。

二十一日(日)十一時から古式十二段舞楽を奉奏し、午後二時からの神幸祭では、神輿渡御が行われ大宝元年(五五五)の勅使参向の時代絵巻を再現した勅使行列が参道を華やかに飾ります。

大神様のもとに地域の人々が集まり、日々の感謝を申し上げ、共に喜びを分かち合い、祝うことをご加護はより広く行き渡ります。

氏子崇敬者の皆様におかれましては、年に一度のこの期間に是非、ご家族でご参拝ください。

例祭期間のご案内



平成三十一年四月十八日

例祭とは

大神様へ捧ぐ日々の感謝

神社にとって最も重要な祭祀で、通常は年に一度執り行われます。その神社やご祭神によって特別に由緒あるお祭りや、俗に例大祭とも称されます。例祭の期日は神社によって様々で、ご祭神に関わりの深い日や、神社の創建の日など、その神社にゆかりの深い日があてられます。

当社では、ご祭神「大己貴命おおおののみこと」が本宮山に鎮まつたと伝わる由緒ある日です。



例祭の斎行

稚児行列・お稚児さん募集

小 國大神様と一緒に行列をなして ご加護をいただきますように

四月二十一日(日)午後二時より神幸祭(神輿渡御)にあわせ稚児行列を行ないます。

古くから、稚児は神さまに近い清浄な存在として、多くの神事において重要な役割を果たしてきました。

お子さまの健全な成長に感謝し神さまのご加護をいただき、鮮やかな衣装を身に纏い、一生の記念に残るお稚児さんを体験奉仕されてはいかがでしょうか。

●募集要項●

- 対象者 小学校三年生までの男女
- 初穂料(参加費) 5,000円也
- 締切り 3月30日(土)
- お申込み問合せ先 TEL (0538) 89-7302
『小國神社振興会 お稚児さん係』



平成三十一年四月二十日、二十一日奉奏

一、三〇〇年前から続く

伝統の舞楽



特殊神事芸能 小國神社 古式十二段舞楽



▲十二番 獅子

古式十二段舞楽 その歴史

十二段舞楽は、大神様への誠心をもって奉納することを本義とし、毎年四月十八日に近い土・日曜日（本年は二十日・二十一日）にほぼ一日をかけて奉奏します。

この日付は、欽明天皇十六年（五五五年）春十八日、本宮山にご神霊が出現したという当社の創建にちなんだものです。また、大宝元年（七〇一年）二月十八日には都から勅使（天皇のお使い）が出向き、現在の社地に里宮を開き、十二段の舞を奉納したことが舞楽の始まりと伝承されています。昭和五十七年一月二十三日文化庁より「重要無形民俗文化財」に指定され現在に至ります。

東洋文化の精

舞楽は、東洋に発達した古代芸術の代表的なもので、『東洋文化の精』とも言われています。十二段舞楽の原型となる様々な芸能が渡来してきたのは八世紀初頭、西暦七〇〇年頃と考えられています。

その後、都では盛んに舞楽が奏でられ、平安時代初頭には早くもその黄金期を迎え、十二〜十三世紀にそれらが地方に伝播したと学術的には考えられています。

しかしながら、当社への舞楽の伝来は八世紀初頭と早く、都と当社との関係性の深さを伺わせます。そして、当社の舞楽の細部には、中央で失われたとされている所作が部分的に残っていることからその古さがわかります。

同時に、その古の形が現在まで伝承されていることに古式十二段舞楽の独自性があります。



▲六番 新まつく



▲九番 陵王

奉納演目

●平成三十一年四月二十日(土)
午後二時より奉奏

●平成三十一年四月二十一日(日)
午前十一時より奉奏

- 一 番 連舞 (子ども舞)
- 二 番 色香 (大人舞)
- 三 番 蝶の舞 (子ども舞)
- 四 番 鳥の舞 (子ども舞)
- 五 番 太平楽 (子ども舞)
- 六 番 新まつく (子ども舞)
- 七 番 安摩 (大人舞)
- 八 番 二の舞 (大人舞)
- 九 番 陵王 (大人舞)
- 十 番 抜頭 (子ども舞)
- 十一 番 納蘇利 (大人舞)
- 十二 番 獅子 (大人舞)

演目の詳しい解説は

小國神社 十二段舞楽

検索

これからの 行事

7月



宮代神饌御田植祭



端午祭



5月5日午前10時より斎行いたします。

菖蒲の節句とも言われ、お子様の健やかな成長を祈るお祭りです。祭典後は邪気を祓う菖蒲とよもぎの葉を授与いたします。



月次祭

毎月1日と18日の9時から執り行います。

月次祭では、神様に日々の感謝を捧げ、国家国民の安泰と繁栄を祈ります。ご参列はどなたでも可能です。当日、社務所受付でお申し出ください。



平成31年(新元号元年)5月26日(日)午前10時より 第7回もりもりマーケット in 小國神社の開催

小國神社第3駐車場(みもろ焼き前)で開催。

森町出身の女性らが企画運営し、「森の仲間たちがつくる森の暮らし」をテーマに手作りの温かさが伝わる雑貨や、アート作品等の展示販売が行なわれます。ご参拝後に是非お立ち寄りください。

6月

水無月

- | | | |
|-------|-----------|------------|
| 1日 | 月次祭 | (午前 9時) |
| 1日 | 花菖蒲園開園奉告祭 | (午前 9時) |
| 1日・2日 | 大骨董蚤の市 | (日の出~午後3時) |
| 2日 | 花しょうぶまつり | (午前10時30分) |
| 6日 | 本宮山月次祭 | (午前10時) |
| 18日 | 月次祭 | (午前 9時) |
| 22日 | 御田植祭 | (午前 9時) |
| 30日 | 夏越の大祓式 | (午後 3時) |

7月

文月

- | | | |
|------|----------|------------|
| 1日 | 月次祭 | (午前 9時) |
| 6・7日 | 大骨董蚤の市 | (日の出~午後3時) |
| 6日 | 本宮山月次祭 | (午前10時) |
| 18日 | 月次祭 | (午前 9時) |
| 26日 | 甲子祭 | (午前 9時) |
| 31日 | 境内地譲渡記念祭 | (午前 9時) |
| 31日 | 愛宕神社例祭 | (午前10時) |

小國神社の祭典・

4月～

平成31年(新元号元年)6月30日(日)午後3時より

夏越大祓式

半年に一度、日常生活の中で犯した罪や過ち、心身の穢れを人形に託して川や海に流し、祓い清める神事です。

引続き茅の輪くぐり神事を行い、無病息災を祈ります。どなたでもご参列ができます。

半年の罪穢れを祓い、身も心も清々しい気持ちで新たな季節をお迎えてください。

4月

うづき
卯月

- 1日 月次祭 (午前 9時)
- 3日 神武天皇祭遙拝式 (午前 9時)
- 6・7日 大骨董蚤の市 (日の出～午後3時)
- 6日 本宮山月次祭 (午前10時)
- 6日 勸学祭 (午前11時)
- 7日 一宮さくらまつり (午前10時)
- 8日 杉 祭 (午前 9時)
- 8日 全国一宮等合殿社例祭 (午前 9時30分)
- 10日 天皇皇后両陛下ご結婚満六十年奉祝祭
- 16日 献茶祭(茶商組合) (午前 9時30分)
- 16日 垢籬祭 (午前11時)
- 17日 献詠祭 (午前10時)
- 17日 前日祭 (午前10時)
- 18日 例 祭 (午前 9時)
- 18日 舞 揃 (午後 2時)
- 20日 氏子入り奉告祭 (午後 2時)
- 20日 十二段舞楽奉奏 (午後 2時)
- 21日 十二段舞楽奉奏 (午前11時)
- 21日 神幸祭 (午後 2時)
- 21日 献茶祭(手揉み保存会) (午後 4時)
- 29日 昭和祭 (午前 9時)

5月

さつき
皐月

- 1日 月次祭 (午前 9時)
- 4日・5日 大骨董蚤の市 (日の出～午後3時)
- 5日 端午祭 (午前10時)
- 6日 本宮山青葉祭 (午前11時)
- 18日 月次祭 (午前 9時)



一宮さくら祭り

4月7日午前10時より開催いたします。

門前駐車場のステージを中心に各所で様々な催しがあります。皆さままでお越し頂き神々が運ぶ春風とご神域の賑わいを感じてください。



本宮山青葉祭

5月6日午前11時より斎行いたします。

本宮山の新緑が鮮やかな美しい季節です。どなたでもご参列ができます。是非、ご登拝され大神様のご加護をお受けください。



写真で振り返る、世界からの祝福



▲寿詞を述べる海部内閣総理大臣

◎平成の御代替り◎

みよがわ

即位礼

そくいらい

即位を天照大御神にご奉告
国内外に即位を宣言

親しみ深い「平成」も残すところあとわずかとなりました。天皇陛下が「祈りのご存在」として、国家、国民の安寧と世界の平和を祈られる尊いお姿を拝し、私たち国民は勇気づけられました、諸外国の人々にも多くの感動を与えて下さいました。

さて、日本の皇室は、世界最古の王室であり、その悠久の歴史は「古事記」・「日本書紀」といった書物で窺い知ることが出来ます。天皇陛下のご祖先である天照大御神は天孫、瓊杵尊を高天原（天上界）から地上にお遣わしになりました。以来、天照大御神のご子孫が天皇として国を治めるとともに天照大御神を



▶即位礼正殿の儀に臨まれた天皇陛下
◀即位礼正殿の儀に臨まれた皇后陛下



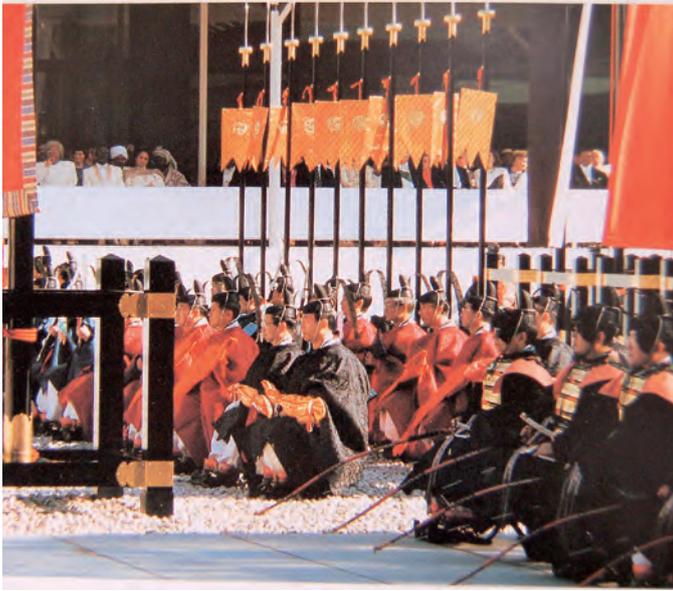
祝福の中、高御座で即位を宣明

皇后陛下が登られた御帳台

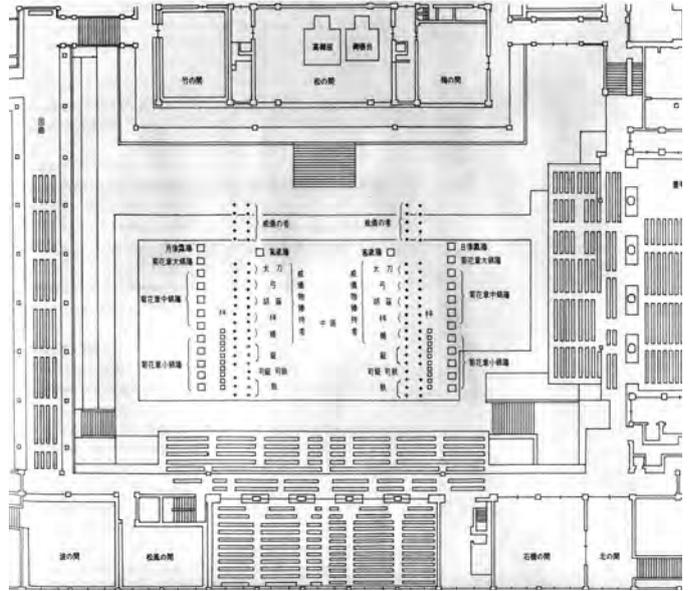


天皇陛下が登られた高御座





▲着床の威儀の者及び威儀物奉持者



▲即位礼正殿の儀齋場図

はじめとする神々をお祀りしてきました。そして、大御神から賜った大切な稲によって稲作を行い今日まで繁栄してきました。

天皇の御代替わりに際しては、様々な儀式が執り行われます。そこには、神々の時代の精神が生きています。儀式そのものは、時代とともに変化をしましたが、大嘗祭を始めとする皇位継承に伴う諸儀式は、神代より受け継がれてきた我が国の精神継承の儀式であるといえます。

本特集では、平成の御代替わりの様子を当時の写真や資料で振り返りつつ、天皇陛下の長年にわたる私心なきお務めに感謝の誠を捧げ、新たな御代が平穩のうちに幕を開け、我が国が益々栄えゆくことを心より祈念いたします。



▲世界中からの参列者の為に多言語化した式次第



平成の「即位礼正殿の儀」には世界158カ国の国と地域から参列者が集まりました。うち国王7人、大統領46人、首相11人が来日しました。これに合わせて行われた2国間首脳会談は58カ国の国と地域、外相会談は57に上りました。

新生児選名・命名について

生を受け、生を伝える
「人の一生」

様々な節目を迎えるとき、神さまへ「感謝」と「ご奉告」を行うことは、古来より受け継がれた日本の文化です。

当社では、日本の伝統文化に則した新生児にふさわしい名前を選名いたします。

また、ご家族で考えられたお名前候補の中から、ご相談の上、選名いたします。

お名前が決定の後、お子様の無事成長と一生の幸せをご神前でお祈りし、お神札、朱印を押印した命名書を授与しております。

初穂料 一〇、〇〇〇円也

命名

平成三十年十二月二日(日)
平成三十一年二月二十八日(木)

藤田 歩実 静岡市
伊藤 充希 菊川市
出沼 那那 鹿兒島県
武藏島 颯汰 森町
牧田 侑大 藤枝市
大幡 祐奈 浜松市
板倉 ななみ 掛川市
内山 日那 袋井市
坂井 柊介 磐田市
朝比奈 蒼 静岡市
池田 猛 菊川市
鬼形美里奈 浜松市

川野 蒼依 掛川市
松井 碧音 袋井市
森下 紬 藤枝市
登坂 航也 森町
山田 鼓 袋井市
下村 憲佑 浜松市
松下 千裕 静岡市
村松 律 袋井市
金子 航大 浜松市
有本 光希 浜松市
市川 陽菜 浜松市
中村 莉々奈 森町

大石 澁 藤枝市
大波 奏斗 袋井市
柴田 紗羅 磐田市
樽裕 朱祢 菊川市
佐次本 翔大 浜松市
永田 愛 掛川市
藤田 大也 浜松市
藤田 愉月 浜松市
松浦 明杜 袋井市
嘉見 步奈 磐田市
新井 遥斗 千葉県
古田 麻陽 掛川市

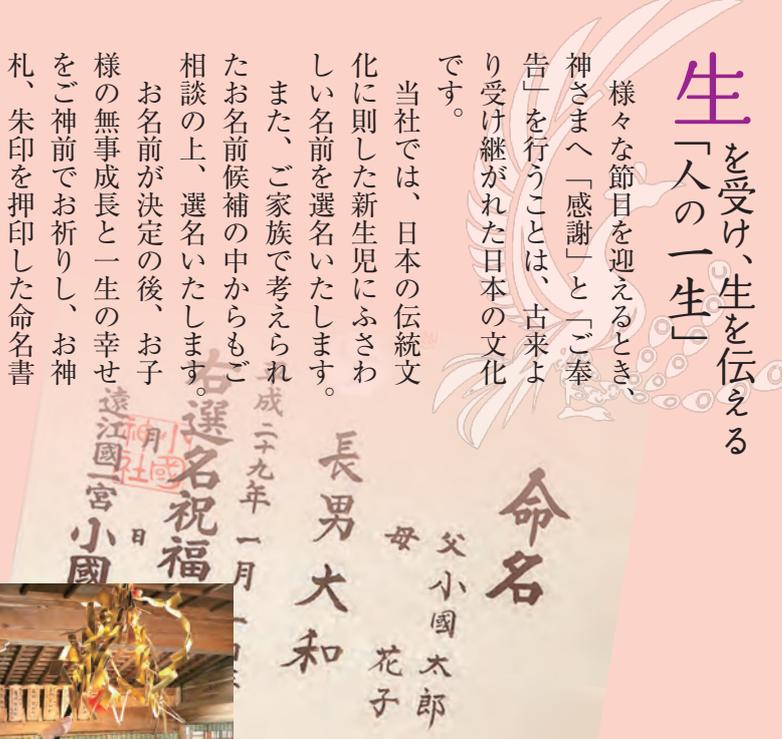
お申し込み方法など詳しくは、小國神社 選名・命名奉告で検索

小國神社 選名・命名奉告

検索



当社で命名奉告をされた皆様
お子様の健やかな成長をお祈りします



神社を知れば日本がわかる “まっりの国、日本”



イラスト 小國神社ものがたり
作 たたら なおき

●鳥居●

神さまの聖域と人間世界との境界線

鳥居の起源については、はっきりとわかっていませんが日本最初の歴史書『古事記』の「天岩戸開き」の逸話には、天照大御神（あまてらすおおみかみ）が岩戸に隠れた際、鶏を止まり木で鳴かせると、岩戸からお姿を現されたことが記されています。このことから、ご神前に鶏の止まり木をつくるように

なり、それが鳥居になったとされています。

一見すると、同じように見える鳥居も神明鳥居、鹿島鳥居、八幡鳥居など数種類あり、それぞれに特徴があります。小國神社の鳥居は明神鳥居（みょうじんとりい）と言われるものです。



最優秀賞 川合正尚氏「静浄」

古代の森 小國神社

〔第17回〕写真コンテスト

「小國神社で見つけた日本の美しさ」を表現した「こころ安らぐ」素敵な作品を心よりお待ちしております

「伝統文化」「美しい自然」を切り取る

本年も好評をいただいております「古代の森小國神社写真コンテスト」を開催いたします。小國神社で見つけた日本の美しさ」を表現した写真を募集しています。作品一枚からでも、年齢やお住まいを問わず誰でもご応募いただけるコンテストとなっております。

作品のご応募について

- 募集部門
 - 第一部門 境内に咲く草花・樹木などの自然
 - 第二部門 祭事・催物
 - 第三部門 野鳥
 - 応募期間
 - 平成三十一年六月一日～七月十日必着
 - ご応募のきまり
 - カラープリント 四切/ワイド四切(フチなし)
 - 撮影期間 平成三十年七月上旬～平成三十一年六月下旬
 - 未発表作品に限ります
- ※詳細は当社WEBサイト、当社・県内写真各店配布の応募用紙をごらんください。

最優秀賞から入選まで各賞をご用意

- 受賞作として二十作品を選び、表彰と懸賞のお渡しをしています
- 最優秀賞 一名 賞金五万円 賞状 森町産お茶
 - 優秀賞 三名 賞金二万円 賞状 森町産お茶
 - 特別賞(宮司賞) 一名 賞金三万円 賞状 神饌茶
 - 入選 十五名 賞状 副賞(二品)

心ゆくまで作品を堪能できる写真展へお越しください。ご応募いただいた作品の中から、受賞作品・展示作品、約五十点を選び、展示いたします。

写真展の開催予定

小國神社休憩所2階研修室
平成31年9月頃開催予定

写真展に寄せられた感想をご紹介します



●美しい写真に感銘を受けました。どれも素晴らしい!! (愛知県)

●「静浄」がとても素敵でした。神さまが宿っているかのようです。(東京都)

●改めて、「日本っていいな～」と感じました。(磐田市)



●感動して、涙が出てきました。ありがとう。(袋井市)

●小國神社は本当に素晴らしい。この場所をいつまでも大切にしていきたいです。(森町)



詳しくはこちら [第十七回 小國神社 写真コンテスト](#)

検索

勸学祭・氏子入り奉告祭のご案内

新たな季節、新しいスタートを神さまと共に

本年の勸学祭は、四月六日(土)十一時より執り行います。氏子地域の小中学校へ入学する方でしたらどなたでも参列できます。ご神前にて学業成就、身体健全、交通安全をお祈りします。

氏子入り奉告祭は、氏子地域に、四月二十日(土)午後二時よりおこないます。平成三十年一月一日から平成三十年十二月三十一日までに出生されたお子様、嫁入り、婿入りされた方や移住された皆さまならどなたでも参列できます。ご神前にて家内安全、無病息災のお祈りをいたします。

お申込みは各地区の総代を通して行ないます。是非、ご参列ください。



四月十七日齋行 献詠祭和歌募集

明治天皇御製

御題 外交

まじはりを
おすぶ国
へだてなく
したしまばやと
おもふなりけり

意識
交わりを結んでいる多くの国々と、へだてなく親しみを深めてゆきたいと思うものだ。

和歌は神代より続く日本の文化です

当社では例祭に先立ち、ご神前に奉納する和歌を募集しています。言葉に託された様々な思いに触れ、豊かな感性を育みましょう。

募集要項

- 兼題「御代替り」
- 用紙 短冊
(歌は楷書にてお書きください。裏面に住所・お名前を明記ください。)
- 締切り 4月10日(水)
- お申込宛先・問合せ先
〒437-0226
静岡県周智郡森町一宮3956-1
「小國神社祭儀課献詠係」
TEL (0538) 89-7302

辞令交付

静岡県神社庁録事 亀山幸志
小國神社権禰宜に任ずる
(平成三十年十二月二十一日付)

神慮を畏み、宮司を輔け、祭祀の厳修とご神徳の発揚に精進致す所存であります。今後とも倍旧のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

正職員 巫女奉仕者募集

- 当社では、正職員として奉仕ができる巫女職を募集しております。
- 職務内容 祭典奉仕・お神札授与管理・その他
- 対象年齢 十八歳以上
- 未経験者も基礎から指導いたします。

詳細は小國神社総務部人事採用係までお問い合わせください。
電話 ○五三八一八九七三〇二

編集後記

玉垂五十五号をお届けいたします。当社で開催いたしました「エストニアの心」版画家カルヨ・ポルの世界」は期間中一万人以上の皆さまがご来場になりました。遠く北欧の地から海を越えてやって来たエストニア共和国の芸術は、極東の国、ここ日本においても多くの人々に深い感動を与えました。

三月十日には、エストニア共和国の美術クルーとその友人たちがご参拝になり、職員との久しぶりの再会を喜び合いました。

エストニア共和国の独立運動の象徴は「歌」と「バルトの道」と言われる人間の鎖によるもので、およそ二〇〇万人が参加して手をつなぎ、バルト三国を結び、独立を訴えました。その距離はなんと約六〇〇キロメートルの長さといわれます。

エストニア共和国のように、国の独立を守り、平和を守るということは先ず、私たちそれぞれが「自主独立」「自存自衛」の不退転の決意を持たなくてはなりません。